

令和3年度有明・山鹿地域事業部 合同研修会 及び有明地域事業部活動報告会 Web 研修同時開催(報告)

主 催 (公社) 熊本県栄養士会 有明・山鹿地域事業部

日 時 令和3年5月22日(土) 14:00~16:30

会 場 名 玉名市民会館 1階 第2会議室

◇『 チームで行う褥瘡栄養管理 ～ 効果的な栄養管理を目指して ～ 』

講師：中村学園大学 栄養科学部 栄養科学科 准教授 渡邊 啓子 氏

新型コロナウイルス感染症予防対策として、講師にはZOOMを使い遠隔地からの講演をいただき、会場のスクリーンでの受講と自宅等からリモートでの受講を同時に開催しました。

渡邊先生は、1978年4月から2018年9月まで公立学校共済組合 九州中央病院に勤務され、定年退職後は遠賀中央看護学校に勤務、2018年からは中村学園大学に勤務されています。また、現在日本栄養士会常任理事人材育成事業部部長でもあります。

講演内容は、超高齢社会における栄養問題の背景から褥瘡のメカニズム、栄養状態の評価の考え方、実際の病院での事例など、具体的で根拠に基づく内容でとても分かりやすかったです。まず、臨床における“栄養管理”の位置づけは“補助的”役割から“治療手段”の一つに変わっています。介護が必要となった主な原因は、生活習慣病と関節疾患によるものが37%、衰弱、骨折・転倒によるものが25%と、約7割が栄養問題と関連が深いものとなっています。また、日本人高齢者の食事の現状は1日2食以下が約6割という栄養不良のリスクが高いという現状があります。

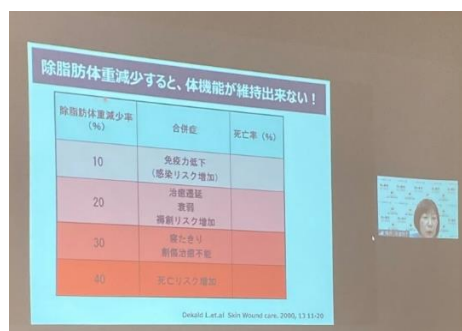
褥瘡の発生要因としては、組織への栄養供給障害、外圧に対する耐性低下であり、低栄養は褥瘡発生の最大のリスクとなっています。徐脂肪体重が30%減少すると徐脂肪体重の維持が優先され、創傷治癒が減速または停止してしまうため、栄養状態の評価(SGAやMNA-SF等)をし、エネルギーやタンパク質等の量は、創傷治癒と栄養状態の改善ができる量が必要であるとのことでした。

ご講演を聞き、褥瘡の治療のための栄養管理も重要であるとともに、褥瘡を起こしやすい低栄養状態に対する栄養管理も重要であり、在宅療養高齢者の8割は栄養状態に問題があるという現状を念頭に置き、褥瘡を予防する視点での栄養管理に努めていきたいと思えます。

今回は、新型コロナウイルス感染症予防対策を実施して、会場参加11名、Web参加24名の出席でした。ご講演いただきました渡邊先生、誠にありがとうございました。



【会場受講とオンライン受講の同時開催で実施】



【渡邊先生(リモートでの講演)】